

中干しの 適期実施で 倒伏防止！

令和5年 夷隅地域水稻生育情報 第 1 報

令和5年5月24日
夷隅農業事務所
改良普及課
TEL 0470-82-2213
FAX 0470-82-3975

生育概況

植付け後となる4月下旬から5月中旬にかけては、気温が25℃を超え夏日になることもありましたが、平年を下回る日もあったため、茎数は概ね平年並みでした。

4月下旬は風が強い日があり、葉先が痛むほ場が見られました。また、5月8日以降の低温により初期生育が停滞した結果、草丈は平年よりもやや短い傾向でした。

一部のほ場では、藻類の発生が見られます。

気象庁の1か月予報（5月20日～6月19日）では、平均気温は平年よりも高い確率が50%となっているため、今後、茎数の増加が予想されます。また、期間の後半（6月以降）は、平年と同様に曇りや雨の日が多くなる予報です。天気予報をこまめに確認して、中干し等の適期作業に努めましょう。

表1 夷隅地域での作柄調査ほの平年比生育状況（5月19日現在）

品種	調査場所	植付時期	平年比※		
			葉齢の進み	草丈(cm)	茎数(本/株)
ふさがね	大多喜町下大多喜	4月20日	6.7 (並)	26 (やや短)	9.7 (並)
コシヒカリ	いすみ市松丸	4月19日	7.3 (やや進)	32 (並)	18.5 (並)
粒すけ	いすみ市島	4月20日	7.3 (進)	25 (短)	7.1 (やや多)

※ 粒すけは調査4年目のため、過去3年分のデータと比較した結果を示しました。

1 過剰分けつ予防のための中干し

今後、気温の上昇により、分けつが過剰になるほ場が増えてくると予想されます。中干しは過剰分けつを避けるための重要な管理です。適期の中干し実施により、根の活性を高めることで倒伏を防止し、さらに、乳白米等の玄米品質低下の抑制にもつながります。

表2に中干し開始時期の目安を示しましたので、こちらを参考に中干しを開始しましょう。

表2 品種別の中干し開始時期の茎数の目安（50株/坪植え）

品種	中干し開始時期の茎数の目安		
	砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	32本/株	32本/株	29本/株
ふさがね	24本/株	24本/株	24本/株
コシヒカリ	21本/株	20本/株	20本/株
粒すけ	31本/株	29本/株	29本/株

2 藻類への対策

今年も藻類の発生がよく見られます。多発すると、藻類により苗が押し倒されて欠株が発生する他、水温が上がらないことで、苗の分けつが抑制されます。

ほ場一面に藻類が広がると除草剤（特にジャンボ剤）や肥料散布の妨げになるため、表3の除草剤を用いて防除しましょう。

表3 藻類の防除効果のある薬剤例

除草剤名	使用量	使用時期/使用回数
モゲトン粒剤	2～3kg/10a (湛水散布又は 無人ヘリコプターによる散布)	藻類の発生始～発生盛期 /3回以内 (但し、収穫45日前まで)

3 雑草への対策

5月14、15日は天気予報に反して雨が降らず、その後晴れが続いたため、田面の露出した水田が見られます。田面が露出すると除草剤の効果が低下し、ノビエやホタルイが残る場合があります。雑草が多発すると水稻の生育・収量の低下だけでなく、斑点米カメムシの増加を助長し、玄米品質の低下にもつながります。ほ場に雑草が見られる場合は、表4を参考に中・後期除草剤を散布しましょう。

表4 ノビエやホタルイに効果のある薬剤例

除草剤名	使用量	施用時期/使用回数	使用方法
クリンチャー バスME液剤	1000mL/10a (散布液量 70～100L /10a)	移植後15日～ノビエ5葉期 (但し、収穫50日前まで) /2回以内	落水散布又は ごく浅く湛水して 散布
アトトリ豆つぶ 250	250g/10a	移植後14日(稲5葉期以降) ～ノビエ4葉期 (但し、収穫45日前まで) /1回	湛水散布又は無人航 空機による散布
ウィードコア 1キロ粒剤	1kg/10a	移植後7日～ノビエ4葉期 (但し、収穫60日前まで) /2回以内	湛水散布又は無人航 空機による散布

実際に農薬を使用する際は、登録内容を確認してください

『水稻生育情報』の入手には、メールやFAXへの切り替えがおすすめです。

できるだけ迅速に情報提供を行うため、
郵送からメールもしくはFAXでの提供に切り替えをお願いしています。

切り替え可能な方は、右記連絡先までその旨をお伝えください。

連絡先

夷隅農業事務所 改良普及課

担当者：板倉、鈴木、太田黒、田中（知）

電話：0470-82-2213 FAX：0470-82-3975

E-mail：t.itkr14@pref.chiba.lg.jp